



2023年8月7日

各位

会社名 株式会社ヨコオ
代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳間孝之
(コード番号 6800 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員 SCI 推進本部長 多賀谷敏久
(TEL 03-3916-3111)

営業外収益（為替差益）の計上並びに連結業績予想の修正に関するお知らせ

2024年3月期第1四半期連結累計期間における営業外収益（為替差益）の計上並びに2023年5月12日に公表しました2024年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）の計上

当第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）において、急激な為替相場の変動により、為替差益1,446百万円を営業外収益に計上いたしました。

なお、上記の金額は、当社グループが保有する外貨建て債権・債務の決済及び期末為替レートによる評価替えで発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。

2. 業績予想修正の内容

(1) 第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～9月30日）

	前回発表予想 (A) (2023年5月12日 公表)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前年同四半期累計実績 (2022年4月1日～9月30日)
売上高 (百万円)	36,000	35,000	△1,000	△2.8	40,207
VCCS	24,700	25,300	+600	+2.4	22,162
CTC	7,500	5,900	△1,600	△21.3	13,054
FC・MD	3,800	3,600	△200	△5.3	4,989
インキュベーション センター	—	200	—	—	—
営業利益 (百万円)	500	△700	△1,200	—	3,507
VCCS	500	400	△100	△20.0	△1,475
CTC	200	△500	△700	—	4,388
FC・MD	△200	△250	△50	—	593
インキュベーション センター	—	△350	—	—	—
経常利益 (百万円)	50	0	△50	—	6,538
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	35	△150	△185	—	4,179
1株当たり四半期純利益 (円 銭)	1.50	△6.43	—	—	179.28

(2) 通期 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	前回発表予想 (A) (2023年5月12日 公表)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)
売上高 (百万円)	77,000	72,000	△5,000	△6.5	77,962
VCCS	50,000	51,200	+1,200	+2.4	46,520
CTC	18,500	13,000	△5,500	△29.7	22,374
FC・MD	8,500	7,400	△1,100	△12.9	9,067
インキュベーション センター	—	400	—	—	—
営業利益 (百万円)	3,200	200	△3,000	△93.8	4,739
VCCS	1,100	1,100	—	—	△2,094
CTC	2,200	△150	△2,350	—	6,169
FC・MD	△100	△50	+50	—	664
インキュベーション センター	—	△700	—	—	—
経常利益 (百万円)	2,750	900	△1,850	△67.3	5,675
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,000	450	△1,550	△77.5	3,147
1株当たり当期純利益 (円 銭)	85.80	19.30	—	—	135.01

3. 修正の理由

第2四半期連結累計期間(上期)と通期の売上高は、当第1四半期連結累計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、上表のとおり修正いたします。営業損益は、VCCS セグメントにおいて増収及び物流費減少などに伴う損益改善が見込まれる一方、CTC 及び FC・MD の両セグメントにおいて減収に伴う減益が見込まれることから、上表のとおり修正いたします。経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益については、想定為替レート 1 米ドル=140 円 (前回予想時は 1 米ドル=130 円) の下、為替差益 700 百万円を見込むほか、事業構造改善費用など特別損失 250 百万円を見込み、上表のとおり修正いたします。

なお、2024年3月期における配当金予想につきましては、半導体検査市場の落ち込みは一時的であり、中長期的には成長するという考えのもと、据え置くことといたします。

4. 予想の前提となる条件等

2024年3月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、世界的な半導体不足の影響が緩和され、生産・販売は回復に向かうものと想定しております。
- ・半導体検査市場につきましては、2023年3月期下期以降の半導体市場の落ち込みが2023年いっぱいには継続し、2024年以降、徐々に回復するものと想定しております。
- ・携帯通信端末市場につきましては、世界的な景気悪化の影響により POS 端末など電子機器端末の伸び悩みが見込まれ、2023年中は継続するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、カテーテル等を用いた低侵襲医療への需要が順調に伸長するものと想定しております。
- ・MaaS/IoT 市場につきましては、モビリティの進展や IoT の普及に伴い、順調に成長するものと想定しております。

(注) 本資料に記載の予想数値は、公表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上